



合理化とコスト削減に向けた組織再編及びイン・ルオCEOの社長 就任について

【東京、2008年8月1日】(株)ジーエヌアイは、本日取締役会において、医薬品開発業務への集中によるコスト削減と事業の効率化を目的とした、日本及び中国の管理体制及び組織についての合理化計画を決議いたしました。

当社の代表取締役社長兼 CFO である鈴木勘一郎は、社長及び CFO を辞任しますが、引き続き代表取締役を務めます。また、代表取締役 CEO であるイン・ルオは、鈴木勘一郎の後任として社長に就任します。この異動の目的は、当社の管理体制をより効率的にし、自社の技術及び資金を事業に活かすことにあります。

合理化計画において、当社は拠点の一つである、創薬解析センター(福岡県福岡市)の閉鎖を予定しております。これは、平成20年3月期において、特に東京及び福岡での活動が、当社の損失の大きな部分を占めているためです。

当社は、遺伝子ネットワーク技術及び上海におけるゲノム技術により、新しい創薬ターゲット探索を行い、現在までに15件の特許と、15個の創薬ターゲットを生み出してきました。創薬ターゲットの一部は、上海での研究開発により、さらなる有効性が立証され、全米科学アカデミーの審査を経て、有力な科学誌に掲載されるなどの実績を残しております。

しかし、創薬ターゲット探索は長期間に亘る医薬品開発の第1段階ですが、医薬品開発には大きなコストが必要であり、創薬ターゲットが見出された後も、商業化するまでには数年を要するのが一般的です。バイオ産業では、創薬ターゲットの基礎研究から臨床試験にいたる重要な段階がありますが、当社の主たる創薬候補物 F647 の平成20年度後半での第3相臨床試験入りに向けて、当社はその経営資源を臨床試験及び製造・販売に集中させる必要があります。当社は、5月19日の発表の通り、上海衡山薬業有限公司(英文名:Hengshan Pharmaceuticals Inc.)の買収を計画しており、当社の製造及び販売活動の推進を目指しています。

当社は、4,000平方メートルを超える近代的な研究開発施設を上海に有しており、福岡市で行っている現有の研究活動は、コスト優位性を持つ上海の研究開発活動に統合される予定です。高コストである日本国内での研究施設に替えて、英国・米国および日本国内における大学及び民間の研究機関の学識者及びコンサルタントと共に、遺伝子ネットワーク関連を含む創薬に向けた共同研究活動を継続いたします。

また、さらなる販売費及び一般管理費の削減に向けて、東京本社部門の縮小と米子会社である GNI USA Inc. の閉鎖も予定しております。当社の事業モデルは、まず最初に中国において臨床試験と上市に向けた活動を行い、POC(新薬の臨床上的有効性の検証)を確立した後に日本と米国にも展開するというものです。日本を拠点として

いる前臨床部門及び製造部門のスタッフは、現在、上海において医薬品の登録に向けた業務やGMP（医薬品の製造及び品質管理に関する基準）の遵守のための活動をおこなっております。本社機能の一つである情報システム部門は、上海に移転します。

上海衡山薬業有限公司（英文名：Hengshan Pharmaceuticals Inc.）の買収が完了した後、当社は上海のジーエヌアイ拠点を含めた中国における合理化・統合を推進します。これらの統合により、当社の事業活動はより経済的かつ生産的に改善する見込みです。

日本の製薬会社との共同研究は、当社の事業モデルにとって重要であるため、CEOの直接的なリーダーシップの下で、日本における積極的な事業開発活動を、今後とも引き続き進めていきます。

これに先立ち、当社は米国 EpiCept 社と提携し、アジアでの肝疾患治療薬の開発を行う契約を締結しました。今後の日本国内での事業開発の重点施策は、利益を生み出すことと共に、医薬品開発のパートナーシップの構築となります。」

「我々は株式市況の悪化への対応として、コスト削減と生産性向上を行います。」当社の代表取締役社長兼 CEO となったイン・ルオは述べました。「この組織再編の後、まずは中国での医薬品開発へ大きく寄与すべく、当社はスリムで強靱なコスト構造を持つこととなります。

デューデリジェンスや最終契約の調整、政府承認の後、予定通りに上海衡山薬業有限公司の買収が完了した後は、当社は 400 名前後の従業員を持ち、約 20,000 平米の施設、年商約 20 億円の売上規模を有することを見込んでいます。損失削減に加え、2008 年 6 月末現在保有する約 11 億円の現預金、Evo Fund からの最大 15 億円の資金調達の実施計画によって、当社の財務状態が改善し、医薬品の上市までを実現できる本格的な製薬会社となることが可能です。」

当社の専務取締役 C S O（Chief Scientific Officer）であるジュン・ウーは以下のように述べました。「我々の医薬品の臨床開発プログラムは、当社の中核となる資産であり、今回の組織再編で大きな影響は受けません。むしろ、それらは一元的に統合化された業務執行体制の下で、より生産的になります。最近の発表の通り、当社が臨床開発を行っている F647 については、特発性肺線維症（IPF）を適応症とする第 2 相臨床試験において、病勢進行抑制に有効な結果を示すことができました。また米国 EpiCept 社との提携による新しい創薬候補物として、肺疾患を適応症とする F1013 を追加する見込みです。私は早く F647 の中国における第 3 相臨床試験の開始ができることを楽しみにしています。」

当社の代表取締役である鈴木勘一郎は以下のように述べました。

「我々は、非常に厳しい資本市場の状況に直面しております。我々は、当社の最初の医薬品開発完了に向けて上海における活動に集中する必要があります。この改革を押し進めるために、私はイン・ルオに社長就任を要請し、彼の戦略的思考、創造的な指導力、産業界での知識と経験を生かし、強力なリーダーシップを発揮するよう期待します。私のこの決断は、当社の利益に繋がる最高の決断です。私は、当社がアジアの医薬品産業において戦略的なプレイヤーとなるためには、ルオ博士のビジョンとリーダーシップが必要であると確信しています。」

ルオは以下のように述べました。

「鈴木氏は、当社の事業経営に対し熱心に取り組んでくれました。彼は会社の困難を乗り越えるため、数多くの貢献をしてきました。我々は、彼のこれまで7年間に及ぶ、計り知れない貢献に対し、大変感謝をしています。今後とも共に仕事を続けていきます。」

「現段階においては、世界で最も成長している中国市場に向けた集中のために、まずは日本国内での支出削減を行います。我々は近い将来、改めて日本における新しい事業機会を掴むための努力を行います。」

今後の見通し（業績への影響）

今回の組織再編による業績への影響については、販売管理費（連結）が平成20年3月期の実績値1,387百万円に対し、平成21年3月期に1,047百万円（△24.5%）への削減、平成22年3月期に807百万円（△41.8%）への削減を見込んでおります。

平成21年3月期の業績見込の詳細については、平成21年3月期 第1四半期決算短信にて、開示予定です。

なお、上記の販売管理費には、のれん償却（平成20年3月期 117百万円、平成21年3月期 160百万円、平成22年3月期 160百万円）が含まれております。のれん償却分を除くと、上記の販売管理費（連結）は、平成20年3月期の実績値1,270百万円に対し、平成21年3月期に887百万円（△30.2%）、平成22年3月期に647百万円（△49.1%）と見込まれます。

ジーエヌアイについて

2001年に設立された、中国においてがんと炎症の治療薬開発に特化している臨床段階の国際的な創薬企業です。2005年6月に上海ジェノミクス（2001年設立）を買収し、上海において臨床試験等の重要な事業活動を行っています。創薬研究と薬剤開発の強みを活かし、他の国際的製薬企業との共同研究にも携わっています。東京に本社があり、R&D、製造、販売活動については上海で行っています。また、中国の北京、天津、鄭州にも事業拠点を持っています。詳細は、ホームページwww.ghipharma.com と www.shanghaigenomics.com をご覧ください。

お問い合わせ

株式会社ジーエヌアイ 経営管理部

電話：03-3580-0751（代）

E-Mail: ir@gene-networks.com